

【単年度事業評価様式】

泉区地域子育て支援拠点事業
令和4年度重点目標評価結果・令和5年度重点目標

事業実施期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日(5年度目/5か年度)
事業の実施者	特定非営利活動法人 ちょこっといずみ
	泉区こども家庭支援課
事業目的	<p>市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。</p> <p>【事業・施設運営の基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 泉区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営 2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営 3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営 4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営 5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関与することができる視点に立った運営 6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。 2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。

令和4年度重点目標の評価

令和4年度 重点目標①	妊娠期から子育て期の家庭の「ライフステージの変化」に応じた支援に、ネットワークを活かして取り組みます
取組内容	<p>①1歳頃までの乳児期の子どもへの関わりを学ぶ機会を充実させます。</p> <p>②妊娠期の方とその家族が共に、子どもの居る生活のイメージを持ち、子育てがスムーズに始められるような学びの機会を、拠点及び地域の関係機関において開催します。</p> <p>③育休復帰した家庭と、復帰前の家庭をつなぐ機会を設け、養育者の経験を伝え活かす機会を作ります。</p>
取組の成果	<p>①について 様々な企画を通して乳幼児期の子どもへの関わりを学ぶ機会を提供するとともに、オンラインの活用や父親を対象とした講座を企画するなど、開催方法や対象者を工夫したことで多くの方に参加いただくことができた。</p> <p>【開催内容(一例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「赤ちゃんタイム」、「ベビーマッサージ」:手遊びやわらべうたを通して愛着形成をはぐくむ関りや効果を伝えるとともに、拠点を利用するきっかけを作り養育者同士の関係づくりにつながった。 ・北上飯田保育園による出張育児講座:おむつはずしについての講座を実施した。 ・「1歳半頃までの子どもの発達」、「遊びを通した子どもとの関わり方」:父親を対象として外部講師(幼稚園園長)による講座を実施した。 ・「眠りの講座(夜泣き)」,助産師による生活リズムの講座:オンラインを活用し、外部講師による講座を実施した。 <p>②について 助産師や栄養士を講師に招き、妊娠期の父母が産後に子育てのイメージを持てる様な講座を拠点・地域・オンラインの場で実施した。また、拠点での開催の際は、拠点を利用する養育者との交流を通して産後の生活のイメージを持てるように働きかけた。</p> <p>【開催内容(一例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産師による講座:赤ちゃんのいる生活・卒乳について(オンライン、地域での開催各1回) ・栄養士による講座:離乳食にも役立つ妊娠期の栄養講座(オンライン、地域での開催各1回) ・妊娠期支援:沐浴体験、配偶者(パートナー)の妊婦体験 <p>③について 育休復帰後のライフスタイルを考える講座を2回開催し、外部講師と併せて先輩パパにも育休復帰後の体験を伝えてもらったことで育休復帰前の不安を持つ家庭がスムーズに生活スタイルを移行できるよう支援ができた。</p> <p>また、区役所で開催した同様の講座にも、育休復帰後の養育者をパネリストとして紹介した。</p>
取組の課題	<p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で子どもと一緒にオンライン事業に参加することは難しいと感じている養育者が多い為、開催日を検討し、両親ともに参加できる機会を増やしていく必要がある。 ・コロナ禍であったため、妊娠期の家庭に向けた取り組みを地域で行う事に難しさを感じた。また、地域の関係機関で主体的に実施するまでには至らなかった。子育て世代包括支援センターとして地域の理解と協力を一層得やすくするために、拠点の役割を地域に更に伝えていく必要がある。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期向けの事業では第一子(初めての子ども)を迎える家庭へのアプローチが難しかった。両親教室や病院への周知以外に広げる必要性を感じた。 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座に参加した方に次年度以降パネリストとして登壇いただくなど、継続的にパネリストを配置できるように働きかけを行う必要がある。

令和4年度 重点目標②	地域の子育て支援力の更なる向上を目指し、人材の育成や学びの機会を提供する取組を区と協働で行います。
取組内容	<p>①子育て応援サポーターの育成と新規養成を行うと共に、サポーターの活動が円滑に行われるよう支援します。</p> <p>②地域の担い手と法人スタッフが共に学ぶ機会を作ります(研修会等)。</p> <p>③障がい、多胎児といった共通のテーマを持つ養育者がつながり、経験の共有が出来る場を設け、養育者が気持ちを語れる機会を作る。</p>
取組の成果	<p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応援サポーターとして活動している人に向けての「フォローアップ研修」を開催し総数の60%の方が参加。普段の活動に活かしてもらえるよう内容も工夫し、モチベーションがあがり普段の活動を振り返れる場ともなった。 ・新規研修を受講してサポーターになった方が、地域の子育てサロンや地域ケアプラザの支援の場で実地研修に参加することが出来た。その中から、赤ちゃん教室でのサポーター活動や「こんにちは赤ちゃん訪問員」にも繋がった。 ・サポーターが参加する場で、参加者にサポーターを周知し、養育者が話しやすいようにサポートした。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人向け、担い手向けそれぞれに向けての研修会等を開催し、担い手やスタッフのスキルアップを図った。 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多胎児を養育する家庭や妊婦に向けた事業(「双子ちゃん、あつまれ」)に対して保育・周知協力を行い、多胎児サークルのOBやサークル参加者への相談や情報交換が行えるよう支援した。 ・外出し辛さを抱える多胎児家庭や多胎妊婦を対象に、多胎児サークルのOB・区の母子保健コーディネーター・横浜子育てパートナーがオンラインで話を聴いたり、相談を受けられる機会を設け、不安の軽減に務めた。 ・就学前相談を受けたり、支援級に進学する年長児を養育する家庭を対象に、して「入学前の気持ちを話そう」を2回開催。経験者の先輩ママとして、ダウン症児の親の会や、地域訓練会の協力を得て、経験者に話を聞いたり相談ができる情報共有の場を提供できた。
取組の課題	<p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応援サポーターが継続して活動する場の確保が難しかった。コロナ禍で子育てサロンや区の事業(赤ちゃん教室)が人数制限をしていることもあったが、新規サポーターの自宅からの距離も課題となった。 ・サポーターの認知度の向上が必要。地域の中で、サポーターが担い手として参加していけるよう、関係機関に向けても協力を呼び掛けていく。 ・応援サポーターに期待する役割と、必要な研修について区と拠点で見直しをしていく。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による人数制限により地域の担い手とともに学ぶ機会をつくれなかったため、R5年度開催を検討していく。 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入学前の気持ちを話そう」は少人数で開催した良さもある一方、幼稚園や保育園に通っている年長、年中児のいる家庭に向けて、関係機関の協力を呼び掛けるなど、周知が広げられると良い。また、保育園を利用している家庭が参加しやすい開催日時について検討が必要。

次年度重点目標

令和5年度 重点目標①	妊娠期からの支援について、父親への支援も意識しながら取り組みます。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・区の専門職と共に、拠点の強みを活かした「親になる前の支援」を組み立て、効果を検証します。 ・夫婦のコミュニケーションをより深め、産後の生活に協力して取り組めるような事業を開催します。 ・子どもがいる生活のイメージを持ち、経験者との交流を通して不安を軽減できるよう、拠点を利用する養育者の協力を呼びかけ、妊娠期家庭と養育者をつなぎます。 ・妊娠期の家庭向け事業を、地域の関係機関と協力して開催します。
令和5年度 重点目標	横浜子育てサポートシステムについて、事業の本来の意義を丁寧に伝えながら、市の新しい支援プロジェクトが円滑に進むよう取り組みます。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新プロジェクトを円滑に進めるために18区拠点で協力して、利用しやすい仕組みを準備をします。 ・既存の会員に向けて、新プロジェクトを分かりやすく伝えられるよう工夫します。 ・子育てサポートシステムにとって最も重要な提供会員の確保に向けて、区と共に働きかけをします。 ・入会説明会に参加しやすくするよう、オンラインを活用して取り組みます。